

もりの伝書鳩

■発行 北海道石狩振興局森林室 石狩郡当別町栄町 192-7
電話 0133-22-2161
FAX 0133-22-0551

HP <http://www.ishikari.pref.hokkaido.lg.jp/sr/srs/index.htm>

■ナナカマド □バラ科

日本各地に分布し、北国の秋を代表する落葉広葉樹で、赤い実と紅葉が美しい木です。
道内では街路樹として多く植えられ、市町村の木として指定が最も多い木です。
「七竈」と書き、「7回竈に入れても燃えない」というところからついた名前と言われていますが、それほど燃えない木ではなく、「七日間竈でじっくり炭化させて備長炭をつくる（七日竈）」説もあります。
※参考：おもしろい木の話（北海道林業改良普及協会）



木育やっています

木育を通じた協働による森林づくりの一層の推進に向け木育推進体制を見直し、平成28年度より、これまで振興局林務課にあった木育体制を森林室に新設することにより、組織内連携の強化を図ることとしました。当森林室では、様々な木育活動を行っており、その中からいくつかを紹介します。

里山林業体験学習

5月に北広島市有林で北広島市の中学3年生が下草刈りをしました。事前に森林づくりの学習をしたので、下草刈りの意味を理解した上での作業となりました。



ヘルメットをかぶるのは初めて。女子の中にはフカフカな人もいます。現代の子は小顔です。



鎌を持つのも初め。自分の足は切らないように。

森林教室

江別市の小学校において、3年生を対象に森林教室を行いました。森林と私たちの関わりについて勉強した後、その中にあった「木はどうやって種を運ぶ？」をラワンの種の模型を使って実験しました。実際に飛ばしてみると、思いのほか飛ぶことに児童たちは大騒ぎです。



森のクイズ。真剣です。



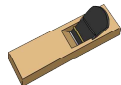
ラワンの種飛ばし。飛んだ飛んだ。

みんなで木育 in ばんけい 2016

教育機関と連携した取組として、夏休みの小学校を利用したイベントを開催しました。このようなイベントは当森林室では初の試みで、試行錯誤しながらの開催となりました。開催日は夏休み最終盤でまだお盆休み、おまけに、当日は台風で一日中雨でした。「こんな日に来てくれる人なんていないよ。」という我々の予想を覆し、学校の児童ばかりでなく、地域の親子連れなど、幅広い方々の来場があり終日賑わいました。



メニューは、森林散策は雨で中止になったものの、木の積み木コーナー、パネル展、木工として、コースターづくり、葉っぱのしおりづくり、木のお魚づくり、表札づくり、森の妖精マグネットづくりと実に盛りだくさん。昼には、ばんけい森林ボランティアの会長さんから豚汁の差し入れがあり、楽しいお弁当タイムになりました。また、森林室I主査を中心とした職員お手製によるパネル立て用木製イーゼルは、見た目も美しく、機能性にも優れており、一見の価値があります。今後のイベントでの活躍が期待されます。(N)



力作のイーゼルを紹介します。

- ◆木製、パネルの大きさに合わせて高さや角度の変動可
- ◆折りたたむので持ち運びもラクチン
- ◆『mokuiku』のロゴ入り



全 容



折りたたんだ状態



角度の変動装置



高さの変動装置とロゴ



活躍するイーゼル

木育ヒント（こんなことやってみました）



当森林室では、学校での森林教室やたくさんの方が集まるイベントで、木育のプログラムを行っています。

準備は省力で、しかし参加者の方が喜んでいただいたプログラムを紹介します。（オリジナルではありませんが）

葉っぱのしおりづくり

葉っぱが若々しい季節でも紅葉の時期でも楽しめます。

■葉っぱ集め・乾燥

①葉っぱを集めて、2つ折りにした新聞紙に葉っぱを挟めて、カタログなどへ挟む

（時々新聞を取り替え、カタログなども取り替えて、乾燥具合を見ながら作ってください）



ご注意！！
花は色がきれいに出来ないで、
シリカゲルをいれたタッパの中に入れて乾燥をさせた方がいいですよ！！（押し花づくりの本など参照）

■ラミネート加工

②パウチに台紙を入れて、好きな葉っぱ等を挟める



③ラミネート機へ入れる
（やけどに注意）



④リボンなどをつけてできあがり（A）

一樹木の不思議シリーズ ヤドリギはどうして木の上にあるの？

■ヤドリギ（宿木）は高い所が好き

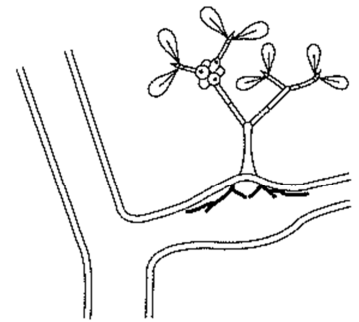
秋になって樹木が落葉すると、枝のあちこちに淡緑の巣のような玉状のものが目に止まります。ヤドリギです。よく見ると中には黄色や赤色の小さな実がついています。ヤドリギの仲間は世界中に分布していて、日本では3属7種、北海道では2種（ヤドリギ、アカミヤドリギ）が、広葉樹に寄生します。ヤドリギは常緑性小低木であり、日光を十分に取込み、澄んだ空気が流れる高い所が好きなようです。

■小鳥たちに種まきをお願いする

ヤドリギの属名ビスカムとは、粘りがあるトリモチの意味で、果実中に強い粘性があり、種子はこの粘液に包まれています。野鳥によって食べられた実が排せつされるととき糞が非常に粘っており、野鳥は糞を枝に引っ掛けて体から外します。その種子が発芽するのです。なぜこのような粘りが必要なのかについてはまだ分かっていません。樹下の地上まで落下してはまずいことが考えられます。その他に、大気中の水分を吸着して種子の乾燥を防ぐため、あるいは、発芽に必要な光条件を得るため日なたにとどまる、または、鳥に食べられても種子まで消化できないよう下剤効果がある、などといわれています。

■寄生植物の一種

ヤドリギは他の樹木の枝や幹に取りついて寄生生活を送ります。葉緑素を有していて、自分で栄養を作りながら、宿主の樹皮の内側まで根を侵入させて養分を吸収し、体を固着させます。葉は肉質の対生、枝はほうき状に伸びて、春に小花を咲かせ、雌株は秋に黄色または赤色の径5～7mmの液果をつけます。ヤドリギは宿主が枯死すると自分も死んでしまうので、寿命は取りついた樹木の運命に依存せざるを得ません。そのようなことから宿主が枯死するような養分のとり方はしないのでしょう。



ヤドリギの寄生

（出典：「もっと知りたい森と木の話」 北海道林業改良普及協会）（I）